

奔流・ロシア木材貿易

日ロ企業の行方

■・2

近年では1985年1月にインドネシアが、翌86年8月にフィリピン、93年4月にマレーシア・サバ州が、丸太を輸出禁止に。フィリピンは20年余りに及ぶ輸出規制を踏まえ、サバ州は中央政府からの政治ハラスメントに對抗する意味もあって禁輸状況に入った。

その点、インドネシアは、木材工業化によって雇用を確保することで地域住民の生活を安定させ、かつての共

産主義社会への回帰を阻止し、社会の安定のため、石油依存の外貨

日本にとって輸入合板時代の到来であり、合板メーカーや南洋材製材メーカーの撤退が相次いだ。合板企業はやむなく針葉樹、とりわけロシアカラ松の合板用材への利用を迫られ、針葉樹合板時代が始まるのである。ロシア

極東にある林産企業が口をそろえて言うのは、ロシア政府の工業化ビジョンがはっきりと説明されていないことだ。07年末に新森林法が制定されたうえで、森林の整備、環境に配慮した施業、林業労働者の育成、伐採権の柔軟な移転、工業化促進などが提案された。未加工木材の輸出税率引き上げも、こうした流れの1つだ。

しかし、誰もが問題視するのは、内税80%で丸太を輸出することは不可能だし、現在25%の輸出税によって得られる税金は、輸出が不能な状態に陥ること

としていいのか。極東における海外市場は中国、日本、韓国である。ロシアは、大規模な投資を夢見ているが、エネルギーや交通・輸送基盤が未整備なことと同時に、ロシアへの根本的な投資懷疑に対して解きほぐす真摯な対応は余り見られない。

工業化のプロセス不透明

戸惑う極東林産企業

獲得依存態勢是正をめざした。

木材工業の「核」を合板工業と規定、82年から段階的に丸太輸出枠を減らし、伐採権

獲得依存態勢是正をめざした。

の投資を誘導。もちろん、政府政策を牽引する有力者も存在した。合板輸出を拡大するための最優先市場を日本と定め、数々の輸出奨励策を打ち出した。

△▽

△▽

△▽